

## 【1】 中学部教育の基本的な考え方とからだづくりをめざした教育課程の編成

「友だちと一緒に、自分らしさを表現しながら、仕事や運動に力いっぱい取り組む子」これが中学部のめざす子どもの具体的な姿である。小学部で自立化を中心に、教師の庇護のもとに、遊びの中で培われた力を、集団参加能力の向上に代表される社会化を中心にした、教師や友だちと関わりのある、少しずつ大人として扱われる、しかしまだまだ遊び的部分の許される生活の中で自分を力いっぱい表現していく段階を意味している。この事は、社会参加を目前にした、職業化を中心にした高等部の生活を遅く生きぬいていける子を発展的に見通し、志向した姿でもある。

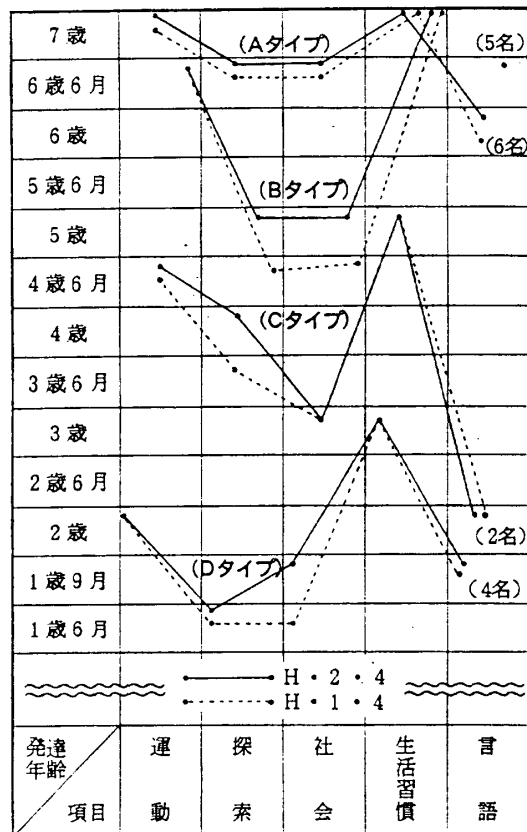
この教育を推進していく時、中学部の生徒の発達段階、障害、少年後期の心理的・身体的特性を踏まえる事が、大切であるのは言うまでもない。

〔図1〕津守式発達検査に見られる傾向

### (1) 中学部の生徒の特性とからだづくり

#### ① 心理的特性

- 右の図は、中学部生徒17名の発達検査の結果を特徴的な4タイプで示したものである。暦年齢12～15歳、発達年齢2.5～7歳と幅があり、障害も多様である。これ等の種々な面を併せ持つ生徒たちの特徴的な状態を示すと
- ・小学部から中学部への変化を少しは自分も感じたり、周りから要求されたりして、少し大人っぽくなる。
  - ・友だちや先生と一緒に活動することに喜びを感じます。
  - ・自我の芽生えや反抗心の出て来る子、自制心や自己形成視の持てだす子、見通しや段取りのつけられだす子等、様々な発達の特徴を持つ子が出てくる。
  - ・体をダイナミックに動かしたり、本物の大人の道具を使って仕事をしたり遊んだりする事に興味を持ち、先生と一緒になら、かなり大がかりな仕事もできます。
  - ・取り組んだ事が自分たちの生活にはね返ってきたり、自分たちの要求が満たされたりする活動には意欲を持ち、集中的・持続的に取り組めます。
  - ・みんなで一つの目的に向かい何かをやり遂げる学習（生活単元学習等）に思いが強く持てだす。



#### ② 身体的特性

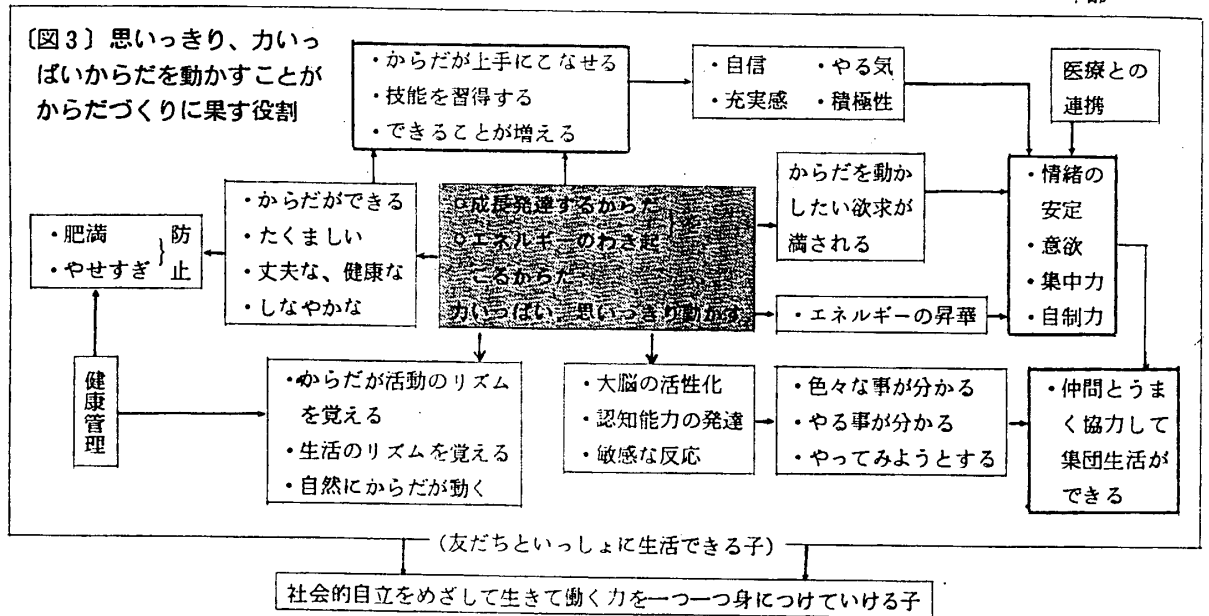
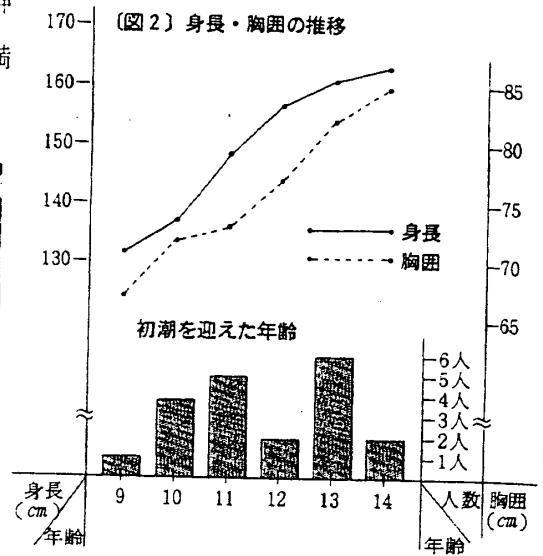
- 次頁の図2は、中学部3年M男の小4～中3までの身長と胸囲の推移と中・高等部女子20名の初潮時期をグラフで示したものである。このグラフを参考に、少年後期の特性をしめすと
- ・この時期、多少のずれや遅れが見られるものの、障害のある子にも第二性徴が見られだし、身体も飛躍的に育つ。身体が飛躍的に育つこの時期、身体は運動を要求する。
  - ・運動要求が満たされないと、筋肉感覚の鈍化、大脳活動の低下、運動を嫌う子を育ててしまう。

この事は、エネルギーを内攻させたり不安定な精神状態や不快な心理状況を作るばかりではなく、肥満傾向を招き、更に運動を嫌うという悪循環を招く。

- ・体が大きくなり、大人顔負けの力がつき、年齢効果も手伝って、今迄使えなかった大人の道具が使えだし、身のこなしが上手になってくる。



- ・周りの人からの健康管理に少しは耳を傾けます。



上図に示すように、まだまだ伸び盛りの思春期の子どものからだを、心理的特性を生かした指導の手だてをとりながら、楽しんで力いっぱい動かす機会や場を保障することによって更に発達させていこうとするのがこのからだづくりをめざした取り組みであり、単なる体だけではなく、心の安定や態度を含めた次の様なからだをめざしたものである。

- ・意欲のあふれる、やる気のあるからだ (意欲、積極性、自主性、自立心等)
- ・使いこなせる、自由に動かせる、力のあるからだ (技能、動き、体力、敏捷性等)
- ・やりとげられる、がんばれるからだ (集中力、持続力、持久力、協調性、安定性等)

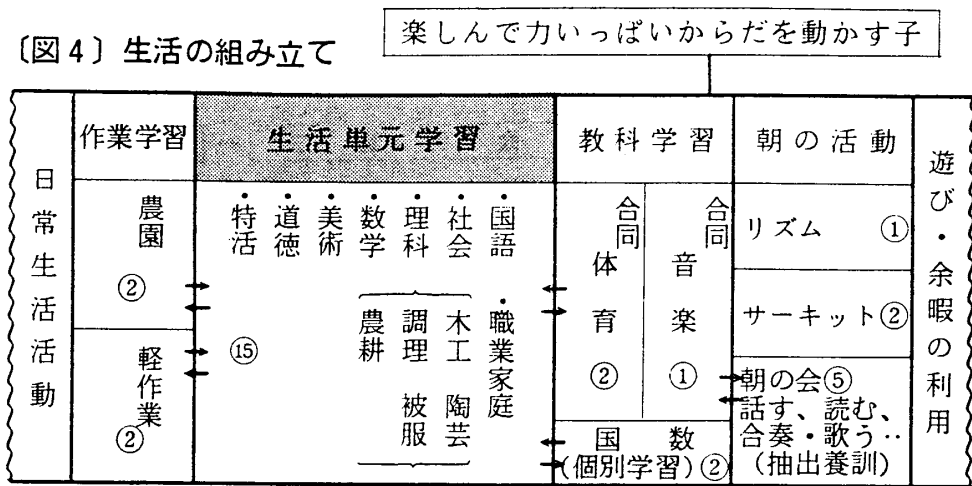
## (2) からだづくりに視点を当てた教育課程の編成

### ① 生活の組み立て

「楽しんで力いっぱいからだを動かす」という、からだづくりをめざした中学部の基本的な考えを実践するために中学部では、生活単元学習を中心に据えた次頁の図4に示す様な生活を組み立て実践している。生活リズムの確立という点から、毎日、1・2校時を朝の活動と体育の帯を

作り、3・4校時に生活単元学習の帯を作った。特に生活単元学習は、遊びの楽しさ・自由さ・面白さ、中学生への社会的要請、職業化への見通しから、作業活動を大きく位置づけた「遊び的労働

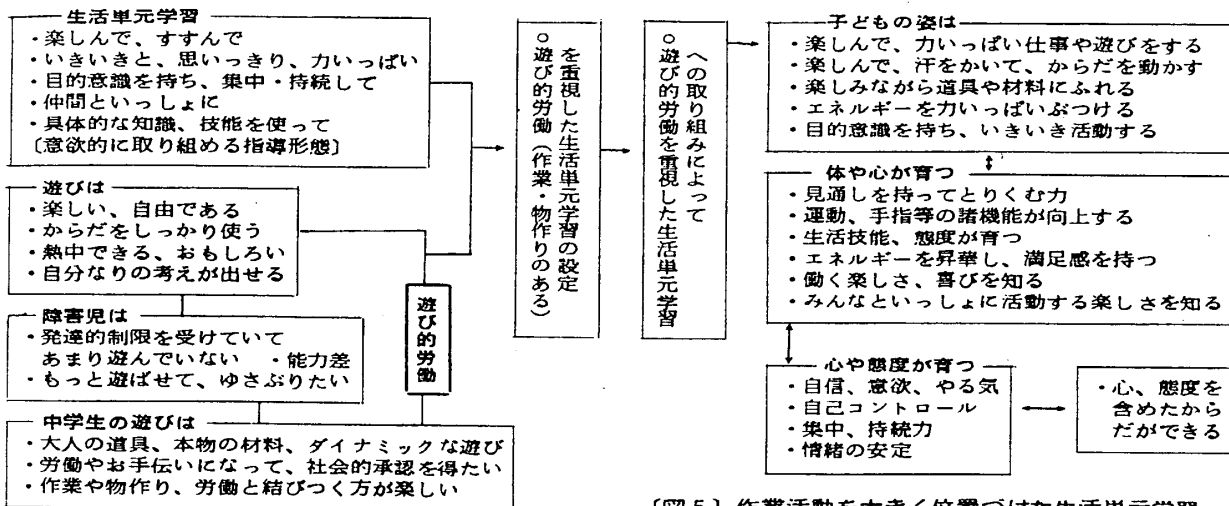
〔図4〕生活の組み立て



日常生活の指導に於る健康管理、指導

○内は週時間数

を重視した生活単元学習」を導入した。従来の作業学習と統合した生活単元学習と変わるものではないが、作業に遊び的部分や要素を加味してからだづくりに迫った点で特徴的である。



〔図5〕作業活動を大きく位置づけた生活単元学習

## ② 集団の組み立て

各学年の人数が3、6、8人と不均衡であるため、1・2年で2クラスの編成も考えた。しかし、中学部は小学部から引き継ぎ高等部へ送るといった立場から、各学年に特徴的な指導が重要であり、クラスは学年による編成にした。まだまだ担任のきめ細かい配慮や援助の必要な子どもたちであり、学習も学級集団が中心になるが、多人数のかかわりで創り上げていく生活も経験させたい事や高等部での学級を解いた生活への発展を見通して、運動、音楽、作業学習は学部合同を原則にしている。また、生活単元学習でも一部を学部合同の展開にしたり、学部を縦割りの集団にしたりする等、多種類の集団をその目的に応じて取り入れ、経験させようとしている。

## ③ 指導の原則

意欲発生、具体操作、スモールステップ、反復練習、生活活用、集団参加と個別指導を重視した。今に始まった事ではないが、「授業づくり」という点で、より意識的に留意した。